

各校判断の尊重求める

都立高教科書採択 都教委に都議団

東京都教育委員会が都立高校の日本史教科書の採択で各学校の選定に介入した問題で、日本共産党都議団は26日、8月に予定する2014年度教科書の採択は各学校の判断を尊重するよう都教委に申し入れました。

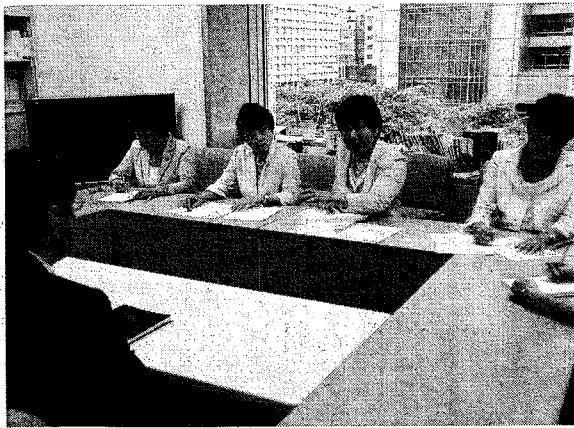
都教委は昨年、13年度の高1年生が使う教科書の採択をめぐ

り、「日の丸・君が代」を一部の自治体が公務員に強制しているとした実教出版の日本史A教科書の記述について、「都教委の考え方と相いれない」と各学校に電話し、同社版教科書の採択校がゼロになつていました。

大山とも子幹事長らは申し入れて、都教委として各学校に対し

「情報提供」「指導・助言」などの名目で学校の教科書選定に影響を及ぼしうる行為を行わないよう要請。教科書の選定・採択は学校現場の指導内容に大きく影響するもので、学校の選定を尊重すべきだと求めました。

また、多様な意見や考え方のあるものを、都教委の見解と異なる



都立高校の教科書採択について都教育庁に申し入れる党都議団＝26日、都庁

という理由で排除することは、あってはならないと批判しました。都教育庁は「都教委

が必要と判断すれば情報提供を行う。圧力とは考えていない」と答えました。